

福島ひまわり里親プロジェクト

きょうの

放射線物質を吸収するとされるヒマワリを復興のシンボルにする「福島ひまわり里親プロジェクト」に賛同した宇治市榎島町の畑で14日、ヒマワリの種が収穫された。種は来春、福島県でまかれ、土壌改良に貢献する。国は「ヒマワリの吸収効果は小さい」とする研究成果を発表したが、プロジェクト側は独自の実験結果を基に、「ヒマワリは雇用、原発事故の風化防止に役立っている」と強調する。

【村瀬達男】

2011・9・16

種

復興の種 宇治で収穫



福島産の種から育てたヒマワリから種を収穫した「福島ひまわり里親プロジェクト」の支援メンバー＝宇治市で

ない3月中旬、宇治市で鍼灸整骨院など3施設を経営する小嶋道範さん(37)が、避暑してきた旧知の半田さんを2日に育ったヒマワリ約40約10日間、受け入れた。小嶋さんはその後、被災地の同県で切り取った。数日間乾燥さいわき市でボランティアに参加、種を抜く。小嶋さんは「畑加。患者から借りた畑に、6の前を通る人がプロジェクト

「原発事故の風化防ぐ」

に関心を持ってくれるようになり、うれしい」と話す。一方、農水省は14日、「放射線物質に汚染された農地の除染は表土の削り取りが有効で、ヒマワリによる吸収は効果が小さい」との試験結果を発表した。

同プロジェクトの半田代表は「確かに、放射線物質が表土に乗ったままの状態だと、ヒマワリは効果が薄い。福島は、福島市内のモニター畑で、ヒマワリが効果があることを証明している」と反論する。

ホームページ(<http://ameblo.jp/sunflower-1ukushima/>)で、コトワリを植えた場所、そこでない場所の放射線量を測定し、独自のデータを示している。

半田代表は「ヒマワリは復興のシンボル。種の袋詰め作業は知的障害者の作業所の雇用につながり、全国に広がった種は原発事故の風化防止になる。全国から福島に種を戻す時に福島に観光に来てもらえれば、地元にお金が落ちる。既に、ヒマワリは役割を果たしている」と話している。

被災者呼びかけ全国から応募

プロジェクトは同県内で放射線量の独自測定に取り組み人材育成会社経営、半田真仁さん(33)らが3月にスタート。ホームページなどでヒマワリの「里親」を募ると、同県を除く46都道府県から応募があり、約1万4000袋が送られた。

福島第1原発事故から間が